

R 4 年度校内研究会に向けて

—

1. はじめに
2. 現状の共有
3. 今年度の方方向性

1.はじめに

—

中学

3年

2年

1年

中学校では、教科の深い学び
学年を縦に見た系統的な学びが得意

一部教科担任制を導入することで、小学校のよ
さと中学校のよさを取り入れていれ、かつ様々
な諸問題も解決していく

小高学年

算数 理科 体育 外国語

社会 外国語 道徳 家庭科 図工 音楽 総合

小低学年

国語 算数 体育 生活 道徳 図工 音楽

保育園・幼稚園

遊びを通した豊かな体験

小学校では、教科
横断的な学習
こどものきめ細か
な見取りが得意

教科担任制をなぜ行うのか

- ・ 義務教育学校（9年間）を見通した系統的な学習が必要。
- ・ 教員の授業力UP、児童の学力・意欲UP（STEAM教育の推進）
- ・ 小中ギャップの解消
- ・ 教員の多忙化解消
- ・ 児童の多面的な見取り

教科担任制ではどのようなことを行うのか

どんな形態で取り入れるかは、各自治体に任されている。

学校の規模によって実態は異なる

①完全教科担任制（文科省も難しい言及）

②特定教科の教科担任制

③授業交換

④TT

⑤中学校教員の乗り入れ授業

教科担任制について、何を検証するか

3つの課題の解消

- ① 導入すべき教科の検討
- ② 児童の不安解消（小中ギャップの解消、複数教員と接することの効果、児童の意欲の変化）
- ③ 効果的な時間の活用（持ちコマ数の減少による影響、空き時間の有効的な活用の方法について）

何を検証するか

3つの課題の解消

- ① 特に専科に合う・小中の連携が必要な教科の洗い出し
- ② 児童が、安心して学べる小中（中学校への心配と実際のギャップが少ない状態であること）
- ③ 効果的な時間の活用（持ちコマ数の減少による影響、空き時間の有効的な活用の方法について）

課題の解決方法

①小中の連携が必要であると思う教科の洗い出し

- ・ 中学の先生からの聞き取り（中学からの視点）
- ・ 中1へのアンケート（違いに戸惑ったこと、同じで安心したことなどの聞き取り）
- ・ 専門性・系統性が必要な教科の確認
- ・ STEAM教育の観点から、文科省が4教科に絞っているのに、検討の余地はあるのか疑問もある。

課題の解決方法

②児童が、安心して学べる小中（中学校への心配と実際のギャップが少ない状態であること）

- ・ 中1へのアンケート（違いに戸惑ったこと、同じで安心したことなどの聞き取り）
- ・ 市川中学区で実際に課題となるギャップは何かを洗い出す。
- ・ 系統的な学習を小中で確認し、確定していく。（昨年度本校では、家庭学習を学校で統一した）
- ・ 教科担任制による児童の意欲向上を把握する。

課題の解決方法

③効果的な時間の活用（持ちコマ数の減少による影響、授業を持たない時間の有効的な活用について）

- ・もうすでに今年実行し出している。
- ・空き時間の活用と残業の関連について調査が必要
- ・先生たちにアンケート：成果を実感してもらう・加配の良さを実感してもらう

2.現状の共有

—

市川小学校の現状

- ・ 2名の先生がが専科として加配されている（運用の中で多くの学担以外の先生に交流授業を行っている。）

☆現在国で2,000人加配されており、文科省は8000人を目指している。

- ・ 担任間交換授業、専科としての交流授業はほぼ全学年実施。
- ・ 算数は全時間複数体制
- ・ 昨年度中に、教育課程を中学校までの系統表を作成してある。

3校の2年後の理想の姿

- ・東小学校も市川小学校も、中学校での生活を教員、児童、ともに理解している状態である。
- ・東小学校と市川小学校のギャップを減らす。（人数的なところは仕方がないが、集団での学習に慣れるなど・専科の理科・外国語の教員に2校の架け橋になってもらう）
- ・小学校の学級担任制の良さ（教科横断学習、児童の全体を把握しきめ細かい対応ができる点）、中学校の教科担任制のよさ（教科の専門性・教える内容のエキスパートとなれる部分）の双方の良さをお互いが理解し、教員のスキルアップを図る。
- ・子供の心理面、実際の生活の面、教科学習の面で小中ギャップが少なく、安心して進学できる。
- ・小中の教員の連携ができている状態。

3.今年度の方向性

—

- 合同校内研究会を設定する。
- 年に4回くらい実施する。
- ICTの共有機能を活用しながら、プロジェクトごとに分かれて、研究をしていく

プロジェクトチーム制で進める

- ・市川小学校の職員を3チームに編成する。

- ・アンケート作成

- ・児童の不安解消チーム（小中ギャップを含む）

- ・効率的な時間の活用

- ・研究授業チーム

- ・理科・外国語の専科加配チーム

- ・全体での活動

- ※教科検討は今年度には取り扱わない

1 学期：理論研究・話し合い

第一回合同校内研

①みんなで、教科担任制について学ぶ！！

②関連している学校の職員が顔合わせ

③実際に埋めるべきギャップの洗い出し

- ・教科の面

- ・生活の面

④アンケート作成に向けた話し合い

(小学校主体・中学校からはアドバイス)

- ・教員の働き方・教科の専門性の高まり・専科の効果

- ・中学校の小中ギャップ解消（中1追跡調査・小6）

- ・児童の意欲

☆中学校の授業を観に行く・小学校の授業を観てもらう

⑤多面的な児童理解のための情報共有の体制づくり

☆一学期の市川小学校の時間割の検証

⑥研究授業に向けた検討

アンケートの 具体案

- ・ 教員の働き方
- ・ 教科の専門性の高まり
- ・ 専科の効果

対象：小学校教員
基本は同じで市小・東小
それぞれの版を作成

- ・ 負担の減少
- ・ 空き時間ができたことによる効果
(空き時間の使い方)
- ・ 教科をしばることによる自身の
指導力への変化
- ・ 専科教員が配置されることの
効果と課題
- ・ 教員から見た児童理解への
効果と課題

アンケートの 具体案

・児童の意欲

対象：市川小・東小児
童
(学年は要検討)

- ・教科担任制による児童の心境の
変化
 - ・複数の教師と関わることによる
効果・課題
 - ・より専門的に指導してもらう
ことによる教科への理解の
深まり・意欲の向上
- ※中学校では、どう子どもの様子
を見取っているのかも先生に聞く

アンケートの 具体案

・小中ギャップ解消

①中 1 追跡調査

対象：市中 1 年

②小 6 調査

対象：両校 6 年

- ・ 昨年度の研究の継続
 - ・ 中 1 へアンケートをとることで、
小中ギャップの様子を把握。
 - ・ 昨年度のアンケートをもとに、
今年度へ活かせることの洗い出し
 - ・ 今年度の小 6 に対するアンケート
のブラッシュアップ
-

2 学期：来年度へ向けての改善作業

- ① 中学の先生による研究授業（〇〇先生学習支援）を
参観（オンラインも視野に）
- ② 〇〇先生の研究授業。（オンラインも視野に）
中学の先生による市川小学校の学習支援

③ アンケートの作成・実行・検証

（現段階での教科担任制の効果と課題を見つける）

※ 1 学期に合同校内研で話し合ったギャップの解消も含む
→ 来年度に実行すべきことのピックアップ

④ それぞれのアンケートから、来年度の教科担任制の在り方
についての検討・計画立案

3 学期：来年度へ向けてのまとめ

- ① after版のアンケート（必要であれば）→検証
- ② 継続していくこと・来年度新規に取り組むことの確認

③ 今年度の研究のふりかえり（第4回合同校内研）

- ☆ 小6は中学校の授業体験（乗り入れ単発授業）
- ☆ 中学校の授業をオンライン配信での視聴
- ☆ 3学期はじめに中1と小6の交流
（中学校生活を見せてもらう）少人数グループ
- ☆ 中学校にて